

脈が主たる流出静脈となっていた。治療は患側外頸動脈系よりの塞栓術を行ない、その後直達手術により Venous Sac の一部摘出および残存 Sac 内へのコイル挿入を行なった。症状は著しく軽減したが病変は一部残存し、6ヶ月後再増大した Sac が皮下に膨隆突出を見るに至った。このため再度の直達手術により Sac を全摘出した。近年の頭頸部の動静脈瘻に対する血管内手術の進歩を考えると、本例の治療経過は決して満足するべきものではなかった。諸兄の御意見・御批判をあおぎたい。

#### 1A-5) 海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻に対する経静脈的塞栓術 6 例の経験

桑山 直也・遠藤 俊郎  
西駕美知春・岡 伸夫 (富山医科薬科大学)  
久保 道也・高久 晃 (脳神経外科)

血管内手術法の発達にともない海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻 (C-dAVF) に対する治療法は大きく変遷している。我々は6例の C-dAVF に対し経静脈的塞栓術を行うことにより良好な結果を得たので報告する。

対象：C-dAVF と診断され、1ヶ月以内の用手マタス操作にても瘻の消失しなかった6例8側。平均年齢58歳、すべて女性。

方法：すべて transfemoral, transvenous approach にて海綿静脈洞にカニューレションし、シャント部位に様々な形状のプラチナコイルを充填した。

結果：6例中4例は術中に瘻が完全閉塞し、症状は3日以内に消失した。1例は術後シャント量の減少に留まったが5ヶ月後には瘻、症状とも消失した。1例はシャント量減少後、再燃をきたしたため再度経静脈的に塞栓術を施行し、術中に瘻の完全閉塞を得た。6例中1例でコイルが肺に迷入した（無症状）。

結論：経静脈的塞栓法は瘻の速やかな閉塞が期待できる有用な方法である。

#### 1A-6) 硬膜および脳動静脈奇形に対する塞栓術における NBCA (n butyl 2-cyanoacrylate) の使用経験

得田 和彦・橋本 正明 (公立能登総合病院)  
脳神経外科

近年、microcatheter の進歩に伴い、血管内手術が AVM の治療の一手段として用いられるようになってきた。しかし、適応、合併症および塞栓物質の選択など多くの問題が残されている。今回、硬膜および脳 AVM に対し NBCA による塞栓術を施行しその使用経験を報告する。

症例1；右眼球突出と眼球運動障害で発症した硬膜 AVM. NBCA と lipiodol を 1:1 で混合し、main feeder に 0.2 ml 注入した。一過性の軽度の顔面痛を訴えるも、眼球症状は消失した。症例2；くも膜下出血で発症した右側頭葉内 AVM. MCA, PCA からの main feeder 3枝に対し、上記混合液を 0.2~0.3 ml 注入し、feeder と nidus の約 2/3 を閉塞した。合併症はなかった。手術では閉塞白色化した feeder と一部血栓化した drainer が見られ剝離は容易であった。結果；NBCA は feeder と nidus の両者を閉塞でき、AVM の塞栓物質として有用である。今後、血流動態と塞栓物質の特性を考慮した各種塞栓物質の選択が要求されるものと思われる。

#### 1A-7) 頭蓋内椎骨動脈狭窄に対する Balloon Angioplasty

瓢子 敏夫・鈴木 知毅  
中川原謙二・田中 靖通  
武田利兵衛・片岡 丈人  
松本 明彦・尾崎 義丸 (中村記念病院)  
中村 順一 (脳神経外科)  
末松 克美 ((財)北海道脳神経疾患研究所)

91年2月より5例の頭蓋内椎骨動脈狭窄 (V4 segment) に対し Balloon Angioplasty を行い良好な結果を得たので報告する。対象は60~65才の男性4例、女性1例で、V4 segment stenosis の局在は右側2例、左側3例である。Balloon Angioplasty を施行した5例の頭蓋内椎骨動脈狭窄の内、2/5は vertebrobasilar system の TIA, RIND を示した symptomatic 例で、2/5は同側の椎骨動脈起始部狭窄を伴う tandem stenosis 例、1/5は対側の椎骨動脈閉塞を有する例であった。また symptomatic 例の内1例は同側の椎骨動脈 V1 segment の狭窄を伴っていた。方法は経大腿動脈で approach し、dilation balloon catheter は PTCA 用を使用した。全例に血管造影上の狭窄の改善が得られ、stroke の再発は認められていない。合併症として occlusion intolerance と dissection が1例ずつ認められた。Balloon Angioplasty は頭蓋内椎骨動脈狭窄にも有効な治療法で、tandem stenosis 例では特に有効と思われた。